press release 00 May, 2023
Nice Corporation

岡山県・児島のデニム縫製工場、株式会社ナイスコーポレーション

縫製工場として、B Corporation™ 認証

社会的及び環境的影響の高い基準を満たすビジネスのグローバルコミュニティの一員に

株式会社ナイスコーポレーション（本社所在地：岡山県倉敷市　代表取締役社長：井筒伊久磨）は国内外のメゾン、アパレルブランドが求めるデニムを形にしてきた縫製工場です。世界的なデニムの生産地として知られる岡山県倉敷市児島に拠点を構え、1990年の会社設立より34年にわたり、ものづくりを続けています。

この度、アメリカ・ペンシルヴァニア州に拠点を置く非営利団体B Lab™（読み：ビーラボ）が運営する「いい会社」を評価する国際的な制度「B Corporation™（以下、B Corp™ 読み：ビーコープ）」に、2023年4月5日付で認証されました。日本国内の企業では20社目、縫製業では初めての認証です。（2023年4月現在）

B Corp™とは、環境や社会に配慮したサステナブルな事業を行うとともに、アカウンタビリティや透明性など、B Lab™の掲げる高い基準を満たした企業のみが参加可能なグローバルコミュニティです。より良い企業としてあり続けるため、努力し続けることが求められます。また、B Lab™は認証基準を進化させ、3年ごとに企業がそれらを維持、改善していることを確認します。B Corp™とは、賞やステータスの一種ではなく、国際的なビジネスシーンにおける継続的な事業改善と、社会貢献のスタートです。

ナイスコーポレーションは30年後を見据え、従来の縫製工場のイメージを払拭し、縫製業自体に価値を見出し、次の世代へとその魅力と技術を受け継いでいきたいという思いから、B Corp™認証を指標に、2020年頃より自社の事業改善に取り組んで参りました。
日々排出される裁断くずを用いたリサイクル生地や残反を活用した自社ブランド「NC PRODUCTS」の開発をはじめ、オーガニック生地の利用促進、自社製品1着当たりのCO_2排出量の算出をはじめとする環境配慮における改善の他、従業員の労働条件、エデュケーション、社屋設備、地域社会への貢献ポリシーの策定など、あらゆる角度から見直しをはかることで、自社および、業界全体としての課題を見出しています。その結果、BIA（B Impact Assessment）スコア95.3点を取得し、B Corp™認証に至りました。（※B Corp™認証のBIAボーダーラインは80点）

弊社の事業が認証されたことはスタートに過ぎません。3年後の再認証に向け、どのように取り組みを改善し社会・環境に対しより良いインパクトを与え続けられるか、これからも私たちにできることを一つずつ考え、実行して参ります。

B Corp™ とは

B Corp™は米国のNPO法人「B Lab™」が運営する国際認証制度。公益性の高い事業を展開する企業が、B Lab™が独自に設定した200を越える厳しい基準（B Impact Assessment）をクリアすることで認証されます。企業内の商品単体や、ある一つの社会的または環境的問題にのみ焦点を当てているわけではなく、企業全体を評価するところが、B Corp™特徴です。そのため、株主に対してだけではなく、その企業を取り巻く全ての利害関係者に対して説明責任を果たしているかを含め透明性を有しているかが問われます。また認証及び、認証を維持するためのプロセスは厳格であり、事業部門から管理部門のすべてが関与し、継続的な事業改善に取り組むことが求められます。B Corp™認証された企業は、人々に対し包摂的で公平な扱いをするということを意味し、循環型経済を目指す世界的なムーブメントのモデルであることを表します。
現在、全世界89カ国159以上の産業で6,300以上の企業がB Corp™認証されています。代表的な認定企業には、アウトドアブランドのpatagonia（米）、食品メーカーのダノン（仏）、大手メディアのThe Guardian（英）、アイスクリームのBen & Jerry's（米）、靴メーカーのAllbirds（米）、スノーボードメーカーのBurton（米）などがあります。
https://www.bcorporation.net

会社プロフィール

国産ジーンズ発祥の地、岡山県倉敷市児島。瀬戸内海に面し、瀬戸大橋を間近に望むその土地では、古くから綿花の栽培が盛んで、近代に入ってからは学生服の生産地として知られていました。時代の変化と共に新たな産業としてジーンズの生産が盛んになりました。近隣県の伝統技術である藍染や絣を融合させ、さらにダメージ加工やビンテージ加工を行うことで付加価値が生まれ、児島ならではの日本ならではの良質なジーンズとして、世界から注目をあつめるようになりました。

ナイスコーポレーションは、自社縫製工場を中心に専門性を有したプロフェッショナルな工場と連携し、企画から仕上げ、出荷まで総合的に管理し地域型ワンストップ生産を実現。ハイブランドからラグジュアリー、カジュアル、ワークウェアまで、幅広いジャンルのブランドとものづくりを続けています。
これまで培ってきた技術を次世代に繋いでいくこと、そして国際色豊かな企業をつくり、児島を盛り上げていく。それが私たちが描く未来です。

会社概要

会社名	株式会社ナイスコーポレーション　Nice Corporation
代表取締役	井筒伊久磨
会社設立日	1990年11月　（創業1965年頃）
従業員数	31名（パートタイム含む）※2023年4月現在
資本金	1,000万円
事業内容	被服製造　月産：約8,000点

https://www.nicecorporation.jp/

〈GENERAL CONTACT〉
株式会社ナイスコーポレーション　e-mail: info@nicecorporation.jp
〈PRESS CONTACT〉本件に関するご取材、撮影をご希望の際は下記までお問い合わせください。
PR担当：樋之津暁　e-mail: hinotsu@nicecorporation.jp　mob: 086-473-7821
プレスキット→https://drive.google.com/drive/folders/1LCFapugMDFQ9VIsal3shHsMP2lg1kvdi?usp=sharing

Appendix

B Corp™認証へ向けて準備を進めていた2022年９月に実施した、当社代表、井筒伊久磨のインタビューです。
認証へ向けた経緯や具体的な活動について、今後の事業に対する思いなどについて回答しております。

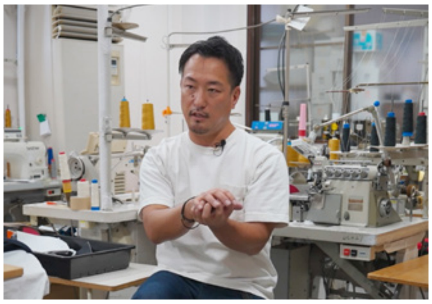
B Corp™認証で、縫製業で世界の次なるスタンダードを目指す。

アメリカ・ペンシルヴァニア州の非営利団体「B-Lab™」が発行する国際認証制度〈B Corporation（Bコーポレーション）〉。英単語の「Benefit（利益）」から頭文字の「B」をとった制度は、略称の〈B Corp（Bコープ）〉として日本でも知られるようになりました。彼らがフォーカスするのは企業のあり方そのもの。企業として説明責任を果たすこと、透明性を保ち、環境や社会に配慮した事業を行うことなどの基準をクリアすることで承認されます。NC PRODUCTSのプロジェクトをはじめるとともにB Corp取得に向けて動き始めたナイスコーポレーション代表、井筒伊久磨へのインタビューでその狙いと思いを探ります。

B Corp™取得の経緯を教えてください。

NC PRODUCTSのプロジェクトを立ち上げるなかで、クリエイティブディレクターとして参加するupsetters inc.の岡部修三さんからB Corp™を紹介されました。プロジェクトとともに会社を見直すなかで、B Corp™の謳う内容は、会社のあり方にも、プロジェクトの根幹にも繋がると感じたのです。ここで提示される価値観は普遍的な内容ですし、ものづくりの会社を運営する上で必要な取り組みの一つだとも感じました。最近は、国内のファッションメーカーやブランドもB Corp™取得の動きが出ています。しかし彼らは企画販売を主力としており、私たちのような現場の縫製工場ではありません。

これまでファッション産業の工場は、薄利多売、重労働、低賃金、とマイナスのイメージをもたれがちでした。そうしたイメージが強い工場だからこそ取得に意味があり、業界全体への問題なによりB Corp™の内容は誰にとっても前向きなものと感じました。会社や社員個人に向きながら、社会的な関係性、コミュニティ、自然環境と、包括的な視点をもってすべてに優しいあり方を大事にしていることに共感したのです。



代表取締役　井筒伊久磨（Ikuma Izutsu）
1979年生まれ。高校卒業後にカナダ バンクーバーに留学し、現地のヴィンテージショップなどで経験を積み2003年に帰国。ナイスコーポレーション入社後、20年間あらゆる現場を担当する。2021年代表取締役に就任し、工場の可能性を伝えるため世界中を飛び回る日々。

2012年にB Corp™をはじめて取得したのがアウトドア用品ブランドの「パタゴニア」です。もともと環境への意識が高いブランドとして知られていますが、取得後も常に認証基準を満たしています。また天然素材やリサイクル素材の使用で知られるアメリカのシューズブランド「オールバーズ」も取得しており、素材調達、デザイン、製造、管理、廃棄に至るすべての過程でカーボンフットプリント（温室効果ガス）を測定し、その削減に取り組んでいます。ナイスコーポレーションにとって取得のメリットは、どのような点にありますか。

国際認証ですから、海外にむけて言葉を尽くさずとも発信できることが大きいですね。私たちのような一地方の小さな企業が世界の企業と対等にコミュニケーションを図れることも魅力です。B Corp™を取得した会社で構成されるオンラインコミュニティがあるのですが、このプラットフォームを通じて私たちの素材や技術に興味をもつ企業と対話ができるようになります。そして私たちの回りにも環境負荷の低減に向けて活動を行う企業は少なくありませんが、こうした取り組みの視覚化には難しさを感じます。それがB Corp™の取得することで、企業として備えるべき社会的な素養があることを理解してもらえる「わかりやすさ」は魅力です。予想外の出来事としては、B Corp™の認証取得に動いていることが若い社員から評価された点があります。とくに来春入社の社員からは認証取得への動きが入社の決め手になったといい、認証取得への動きが雇用にも寄与しています。

本社工場は瀬戸大橋の程近くに。
この地域では昔から綿花栽培が盛んであった。

児島にある本社工場のエントランス

今後、B Corp™の取得は会社のあり方にどのような意味をもたらすのでしょうか。

会社はやはり会社法上、株主のもので利益配当が求められます。しかしB Corp™は株主に向けた取り組みではなく、立地する社会、従業員、会社の存続を支えてくれる人に向かうものだと解釈しました。そしてこれからは、会社がどこに向かってビジネスをしていくのかが問われる時代です。直接的には株価上昇に繋がらないため、日本の新聞などではあまりいい印象で書かれていないように見受けられます。しかしだからこそ、新しい資本主義をデザインするためのツールになりえますし、私たちのような地方の小さな非上場企業で広がることに意味があるように感じます。すでに海外では自社の企業利益を第一とする企業より社会環境への還元を行う企業への投資に注目が集まっています。B Corp™の取得は結果として会社の存続可能性を高め、安定した経営につながります。〈NC PRODUCTS〉への取り組みが会社を成長させ、私たちが良しとするものづくりを続けていく環境の継続につながる。これこそ成功のひとつのあり方だと思います。

B Corp™の認証には、5項目200問を超える設問への回答およびそれに見合う社内規定の作成とレビューを経て、審査を受けなくてはいけません。また取得後も認証の更新が3年ごとに行われ、評価の更新、自社の取り組みに関するレポートの提出と公開が求められます。試験はどのように進められたのでしょうか。

試験の項目には解釈に幅がある内容もあり、私たちも提出に向けて評価軸を議論しながら進めました。そのなかで会社のあり方自体を考えていく過程に面白さを感じたのです。日本ではB Corp™自体がそこまで浸透していないのが現状で、どうしてもSDGs的な文脈、金融寄りの文脈、やらなくてはいけないという責任で語られることが多いようです。しかし私たち自身のあり方を判断していく文化的な取り組みにこそ魅力を感じました。一方、B Corp™の評価項目には日本の社会にフィットしていないものも見受けられます。アプライするなかで、国際的な視点や価値観そのものを知る面白さがありました。必ずしも欧米的なあり方がいいわけでもなく、日本的なあり方がいいわけでもありません。そこにこそ、自社のあり方を見つめる視点が生まれると思います。

B Corp™の規約に沿った社内規定の制作が求められますが、これはどのような作業でしたか。

実を言うと、すでにあった就業規則を整理したという印象です。あらためて、労務士、税理士、行政書士らと労務基準や社会保険などを見直し、整合性を確認しました。結果的に大きく内容も変わることなく、確認作業を通じてこれまでの規約が間違いではなかったという自信も得られました。一方、感覚的な認識であった温室効果ガスや水資源の使用削減などの環境基準を明文化しています。さらにパワーハラスメント、妊娠出産へのハラスメント、セクシャルハラスメントの三つのみを禁じていたハラスメントの項目に具体性を持たせ、身体や精神の健康を損なった場合に雇用をどのように守るかといった内容まで踏み込んで規則を加筆修正、アップデートしています。そして労働災害が起こったときの状況分析、改善点の取り組み、事故の再発防止などのフローを明文化したことで、従業員に会社のあり方を伝えやすくなりました。どうしても制度策定はトップダウンにならざるを得ない面もあります。しかし会社に合ったものを詰めていく段階で従業員から意見を吸い上げていく過程が必要です。今回の取得過程が従業員との相互理解を深めることに繋がり、会社の環境改善にも繋がりました。

自社のオリジナルブランドNC PRODUCTSのベーシックパンツ。自社で発生する裁断くずを利用した再生生地を使用。パターンや縫製はノウハウを存分に活かし、社員の技術向上の一端を担っている。

NC PRODUCTSから発表した、残反をパッチワークしたクッションとラグ。角の部分にズレが出ない縫製も、同社が誇る技術力の高さを表現している。

製造過程において発生してしまう残反。この中から自社ブランドに生地を活用する。

Appendix

B Corp™の取得にあたって求められていることは具体的になにかありますか。

B Corp™を運営するB-Lab™から、半期に一度は従業員の満足度調査を行うよう求められています。そこには、会社で働くことでスキルアップが望めるか、会社に将来性を感じるかなどの質問が含まれます。さらに欧米的な価値観も含まれており、我々の文脈にどう落とし込むかを悩む部分がありました。たとえば質問項目に生活賃金を支払っているかが含まれます。これは法定最低賃金ではなく、文化的に高度な生活を送るための賃金を指す言葉です。日本の雇用文化で理解は難しく、そのベンチマークがありません。そこで私たちは残業込みで達する目標生産数を就業時間内に終えた場合でも残業代の賃金分を支払う仕組みを策定しようとしています。会社としては、そもそも残業のない職場環境の実現を目指しています。しかし残業時の賃金を給与に含むことを前提にした従業員にとって、ただ残業をなくしては経営側のエゴになる。頑張った分を還元するボーナスの仕組みで、効率よい働き方と社員の幸福度を高めていくことを実現していきます。そして私たち自身もまた、B-Lab™との定期的な面談が求められます。

日々の業務を通じ、具体的な技術継承を実践する。

会社設備などの物的な見直しは求められましたか。

B Corp™取得のために設備や製造ラインの見直しはほとんど必要がありませんでした。ただしより良い環境のために行動は必要で、いまは工場の電力を再生エネルギー 100%に切り替えています。二酸化炭素排出量の可視化から具体的な削減方法などをサポートするベンチャー企業のサービスを活用し、電力や二酸化炭素排出量、端切れなどの廃棄物量を数値化してトラッキングし、それらの削減に取り組みます。今回の認証取得で客観的な指標が入り、結果として改善点がイメージしやすくなりました。解決すべき問題と改善策を考えるきっかけとなり、社員と共有しながらで浸透していく仕組みはありがたい。みなが足並み揃えられる内容を会社の目標設定に据えられそうです。

B Corp™認証を目指す活動は、Z世代をはじめとする若い世代の入社にも繋がっている。

裁断くずをはじめとする廃棄物は日々計量が行われ、削減目標を具体化。写真の裁断くずは、先述の自社ブランドの生地として再生される。

今後会社が目指していくものはどのようなものでしょうか。

B Corp™の取得自体が目的ではなく、あくまで従業員が離れない会社づくりが目的です。従業員が離れる原因は、彼らに何かしら不満があることがほとんど。それは単純に給料面や待遇面に限らず、居心地の良さも求められます。弊社はここ数年ほとんど人が辞めておらず、従業員の世代も若い世代からベテランまでと幅広い。私たちの業界は仕事に飽きて辞めてしまう人も少なくはありませんから、刺激的な目標とそれによる達成感を得つつ、最終的には賃金に還元されていかなくてはいけません。今後は社員との共有がより重要になるでしょう。会社の業績説明とともに取得の進捗についても逐次報告していきます。

縫製後に後加工を行う関連工場（ニッセンファクトリー株式会社）では、徹底した排水処理が行われている。自社内に限らず、関連工場と連携し、相互理解を深める活動も実践している。

インタビュー・文：山田泰巨 ／ 撮影：北村 穣 (Rudesign / GO motion)
※本インタビューは、自社ブランド「NC PRODUCTS」のオフィシャルホームページのCOLUMに掲載されています。
https://ncproducts.jp/blogs/column/b-corp